

介護福祉士養成施設に在籍する外国人留学生に対する 国家試験対策講座についての一考察

鶴和也¹, 小嶋栄子², 藤島法仁²,
立川かおり¹, 吉村浩美¹, 馬場由美子¹

(西九州大学短期大学部 地域生活支援学科¹

長崎短期大学 地域共生学科²)

(令和4年1月15日受理)

A Study on the National Examination Preparation Course for International Students Enrolled in Care Worker Training Facilities.

Kazuya TSURU¹, Eiko KOJIMA², Norihito FUJISHIMA²,
Kaori TACHIKAWA¹, Hiromi YOSHIMURA¹, Yumiko BABA¹

(1 Department of Local Life Support Sciences, Nishikyushu University Junior College

2 Nagasaki Junior College Department of Regional Collaboration)

(Accepted January 15, 2021)

Abstract

As one of the efforts based on the comprehensive cooperation between Nagasaki Junior College and Nishi Kyushu University Junior College, this study summarizes the Japanese language measures courses for the national examination for care workers (hereinafter referred to as "measures courses") given by teachers specializing in Japanese language education in the Care Welfare Course, Department of Community Symbiosis, Nagasaki Junior College from November 2020 to January 2021. This is a summary of the Japanese language preparatory courses for the national examination for care workers (hereinafter referred to as "measures courses") conducted by teachers specializing in Japanese language education in the Care Welfare Course of the Department of Community and Symbiotic Studies at Nagasaki Junior College from November 2020 to January 2021. The measures lectures were conducted face-to-face for students of Nagasaki College and remotely (ZOOM) for students of Nishi Kyushu University Junior College. Through the measures course, we felt that there were issues to be addressed, such as reexamination of the course contents and the timing of the course. In addition, in the latter half of the countermeasure course, students were prohibited from attending school due to the spread of the new coronavirus infection, and there was a period when the countermeasure course could not be conducted. On the other hand, the exchange between international students of the two schools and the regular meetings between the teachers of the two schools to discuss the course contents led to the maintenance and improvement of the students' motivation and the teachers' self-improvement. Rather than describing the results of the project, the focus of this paper is to write down the progress that has been made through trial and error with the cooperation of teachers from both schools. By doing so, we expect that the future collaborative courses between the two schools will take a further leap forward.

Key words: 介護福祉士国家試験 : National Examination for Certified Care Worker
日本語対策講座 : Japanese language measures courses
外国人留学生 : Foreign Students

I 緒言

要介護者の増加により、介護の人材不足が深刻な問題となっている。その対策として、介護職員の処遇改善、離職防止・定着促進などに加え、外国人の介護人材確保に向けた取り組みが行われている¹⁾。

このうち、外国人の介護人材確保については、平成29(2017)年から介護福祉士を目指す外国人留学生が、入国後介護福祉士養成施設に入学し、介護福祉士の資格を取得して日本国内で介護福祉士として就労することが可能となった。日本介護福祉士養成施設協会の調査では²⁾、平成26(2014)年度の介護養成施設の外国人留学生数は、17人であったが、令和2(2020)年度の外国人留学生数は2,395人と増加傾向にある。

介護福祉士養成施設に入学する外国人留学生の増加にともない介護福祉士国家試験の留学生受験者も増加している。しかし、第30回試験(平成30(2018)年1月実施)の介護留学生の合格率は41.4%、第31回試験(平成31(2019)年1月実施)の合格率は、27.4%と低い推移をたどっている³⁾。その要因として、介護福祉士国家試験に出てくる問題の文章理解や言葉の意味理解の困難さにある。

本研究では、介護福祉士養成施設に在学する介護留学生に対し、介護福祉士国家試験に焦点をあてた日本語教育を行い、その教育方法と国家試験対策の進め方についての課題と解決方法等を検討することを目的とする。

今回の研究は、長崎短期大学と西九州大学短期大学部との包括的連携に基づく取組みの1つとして、令和2(2020)年11月～令和3(2021)年1月の期間に長崎短期大学 地域共生学科介護福祉コースで日本語教育を専門とする小嶋特任教授(以下 小嶋)による介護福祉士国家試験の日本語対策講座(以下 対策講座)をまとめたものである。

II 研究の目的

本研究では、介護福祉士養成教育における外国人留学生の指導方法と国家試験対策の進め方についての課題と解決方法の教員間連携開発の一環として、国家試験に出てくる理解しにくい日本語について解説し、日本語の理解向上させることで結果的に国家試験の得点向上を目指すことを目的とする。

III 研究方法

1. 研究対象者

令和2(2020)年11月～令和3(2021)年1月の期間に長崎短期大学の日本語教育を専門とする教員による

対策講座を実施した。長崎短期大学 地域共生学科介護福祉コース留学生7名(以下 長崎短大)、西九州大学短期大学部 地域生活支援学科福祉生活支援コース22名(現 介護福祉コース)(以下 西九州短大)が参加した。対策講座の形態は、長崎短大は対面、西九州短大はZOOMでの対策講座とした。本研究では、長崎短大の留学生7名と西九州短大の留学生22名に実施したプレースメントテストの結果、西九州短大の留学生22名に実施した。対策講座に対するアンケート調査結果を主な分析対象とした。プレースメントテストについては、対策講座開始時のみ実施(対策講座後に関しては、新型コロナウイルスの影響で在宅学習となったため未実施)。アンケートについては、Google フォームを用いたWeb調査とし、対策講座の前後で実施した。対策講座の目的の説明、アンケートは任意であって強制ではないことを説明。アンケート内で研究同意の有無の確認を行い、同意したものを研究対象者とした。また、1度の説明で理解が難しい場合は、学生が理解できるまで繰り返し説明を行った。日本語対策講座への参加については、強制ではなく任意とした。

2. 倫理的配慮

参加者に研究の趣旨、方法、個人情報保護、参加の自由を口頭にて説明を行った。また、アンケートについては、回答は任意であることを説明した。アンケート内で研究同意の有無の確認を行い、同意をえたものを研究参加者とした。研究に同意をえられなかったもの、意思確認が出来ないものは研究対象から除外した。また、本文中に掲載されている対策講座風景等の画像については、対象者に承諾を得て掲載している。本研究は、西九州大学短期大学部倫理委員会の承認を得て実施している(承認番号21NTD-01)。

3. 研究期間

令和2(2020)年11月～令和3(2021)年1月

IV 結果および考察

1. 対策講座実施に向けた包括的連携協議会の開催

令和2(2020)年9月25日に対策講座に向けた、西九州短大と長崎短大の包括的連携にもとづく協議会を開催した。西九州短大、長崎短大の教員間で、留学生の現状や国家試験対策の状況等について意見交換を行い、対策講座に向けて方針や実施内容の検討を行った。

2. 対策講座開始前の準備

対策講座を始めるに当たって、長崎短期大学 地域共生学科介護福祉コース教授 藤島(以下 藤島)は長崎

短期大学側の介護福祉コースの教員たちに依頼して「留学生が理解しにくいと思われる用語」をテキスト内から集めた。表1に、ある教員が集めた例をまとめたが、このような事前の情報はとても役に立ち、小嶋はこれらも参考にして講義を進めることができた。

3. 経過報告

表2に「各回の対策講座の内容」を示した。

5回目は、西九州短大の学生が翌日の卒業研究発表会を控えていたため、長崎短大の学生のみ対策講座であった。また、8～11回目まで

表1 留学生が理解しにくいと思われる用語

問題番号	ページ	内 容	備 考
70	221	エイジズムという言葉など、カタカナは理解しづらい。スペルが書いてあるのでフィリピン人留学生はわかる。	中国人留学生のみ
73	224	設問の表現が長いと何を聞いているのかわからなくなる。	中国留学生以外
78	229	図から設問の意味を理解することが難しい。	全員
80	231	〇〇と比べた時のなどの表現、設問がわかりにくい。	全員
92	243	一般就労という意味が理解できない。	全員
103	254	設問からは、皮膚の乾燥を防ぐために保湿剤を塗ることが適切と思うが、選択肢にない場合は解答できなくなる。	全員
121	275	設問に「うつ」という表現がなく、この設問から解答を選ぶのは難しい。	全員
85	366	設問が長く、解答との関連性がわからなくなる。	全員
96	377	介護福祉士が行うアドバイスのイメージがつかない。現実と離れている。	全員
102	383	設問が長いのと、集団生活を送るうえで最も注意すべき優先度の高いものなどの設問がわかりにくい。	全員

表2 各回の対策講座内容

回	実施日	曜日	時 間	授 業 内 容
0	10/19	月	14:20～14:40	担当教員と西九州大学短期大学部学生との顔合わせ
1	11/5	木	16:30～18:00	オンラインによる長崎短期大学と西九州短期大学部学生との顔合わせ。授業の趣旨の説明。 プレースメントテスト
2	11/12	木	16:30～18:00	プレースメントテストの解答と解説(1)
3	11/19	木	16:30～18:00	プレースメントテストの解答と解説(2)
4	11/26	木	16:30～18:00	プレースメントテストの解答と解説(3) テキストの解説
	11/27	金	16:00～16:30	第1回 国家試験日本語対策検討会
5	12/3	木	16:30～18:00	テキスト解説（長崎短期大学学生のみ）
6	12/10	木	16:30～18:00	テキスト解説
7	12/17	木	16:30～18:00	テキスト解説
8	1/7	木	16:30～18:00	両校別々に課題対応
9	1/14	木	16:30～18:00	両校別々に課題対応
10	1/21	木	16:30～18:00	両校別々に国家試験対策
11	1/28	木	16:30～18:00	両校別々に国家試験対策

は、新型コロナ感染拡大の影響で両校別々の対策講座となった。そのため、本稿では1～4回のプレースメントテストに関する回と4～7回のテキスト解説の回の内容についてのみ報告する。また、対策講座の問題作成に当たっては、介護福祉士国家試験過去問解説集 2021⁴⁾を使用した。

3.1 活動の様子

1) 長崎短大小嶋と西九州短大留学生との顔合わせ



2) 対策講座風景



3.2 プレースメントテストの内容と結果について

プレースメントテストの内容は付録1に示した通りである。

付録1 プレースメントテスト内容
「介護日本語」
プレースメントテスト

問題：1

次の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

1. 尊厳・・・・・・・・・・・・・・・・・・
()
 2. 延命治療・・・・・・・・・・・・・・・・
()
- (中略)

問題：2

次の文の漢字すべてにふりがなをつけなさい。(ふりがなは漢字の上に書くこと)

Dさん(75歳、男性)は、介護福祉職のEさん
(中略)

問題：3

「夜中にトイレに行ったとき、転倒し、大腿骨頸部を骨折して3か月入院した」の文で起きたことの順序はどれですか。次の中から一つ選びなさい。

1. 入院→トイレ→骨折→転倒
2. 入院→骨折→トイレ→転倒
3. トイレ→転倒→骨折→入院
4. トイレ→骨折→転倒→入院

問題：4

「仕事中の事故は保険の対象である。通勤中の事故は保険の対象外である」はどんな意味ですか。次の中から一つ選びなさい。

1. 仕事中の事故→保険がきく
通勤中の事故→保険がきく
2. 仕事中の事故→保険がきく
通勤中の事故→保険がきかない
3. 仕事中の事故→保険がきかない
通勤中の事故→保険がきく
4. 仕事中の事故→保険がきかない
通勤中の事故→保険がきかない

(中略)

問題：7

「Eさんは、通所介護の職員への対応に不満があり、苦情を申し出たいがどうすればよいかとU事業所の訪問介護職員に相談した。」と同じ意味の文を次の中から一つ選びなさい。

1. Eさんは、通所介護職員への苦情を、通所介護職員に申し出た。
2. Eさんは、通所介護職員への苦情を、通所介護職員に相談した。
3. Eさんは、通所介護職員への苦情を、訪問介護職員に相談した。

4. Eさんは、訪問介護職員への苦情を、通所介護職員に相談した。

問題：8

以下の事例を読んで後の問題に答えなさい。

【事例】

Fさん(72歳、女性、要介護²)は、中等度の認知症(dementia)があり、自宅^{じたく}で夫と生活している。ある日、訪問介護員(ホームヘルパー)が訪問すると、夫が散乱したコーヒーを片付けていた。(1)Fさんは、「わからなくなっちゃった」と言っていた。訪問介護員(ホームヘルパー)が夫に事情を聞くと、(2)「今日も日課でコーヒーを豆から挽いて入れてくれるのだが、最近^{しつぱい}は失敗することが多くなっちゃって、失敗すると自信を失^{うしな}ってしまうしね。でも、『コーヒーをいれなくちゃ』と言うんだ」と寂し^{さみ}そうに話した。

(1)Fさんは、「わからなくなっちゃった」と言っていた。とあるが、何がわからなくなると考えられますか。

- 次の中から一つ選びなさい。
1. 夫の顔がわからなくなった。
 2. コーヒーの入れ方がわからなくなった。
 3. コーヒーが好きかわからなくなった。
 4. 夫が失敗したことがわからなくなった。

(2)「今日も日課でコーヒーを豆から挽いて入れてくれるのだが、最近^{しつぱい}は失敗することが多くなっちゃって、失敗すると自信を失^{うしな}ってしまうしね。でも、『コーヒーをいれなくちゃ』と言うんだ」と寂し^{さみ}そうに話した。とあるが、これを言ったのは誰ですか。次の中から一つ選びなさい。

1. Fさん
2. 訪問介護員(ホームヘルパー)
3. Fさんの夫

(中略)

次のアンケートに答えてください。

- I どの問題が一番難しいと思えましたか？
一つ選んでその番号を書いてください。
- II その理由を書いてください。

それぞれの設問の正答率を表3に示した。問題2は採点上の統一性の不備、最後のアンケートI・IIの結果は研究倫理上、あらかじめ学生たちから公開の了承を得ていなかったため割愛する。

全体的に西九州短大の留学生の方が長崎短大の留学生より正答率が高い。しかし、両校のNの数が極端に異なる

るため単純に比較ができないので、全体としての傾向を記すことにする。

問題1の漢字の読みについては、「4. 筋弛緩作用」「9. 接触感染予防策」「10. 糖尿病性網膜症」など介護に関する専門的な述語の読みの正答率が低かった。

「8. 合理的配慮」については、長崎短大の留学生は「ごうりてきはいりょう」などと長音の記述が間違っていたため、正答率が0であった。

問題3～問題7は、設問中の文の意味を問う問題であるが、問題5の正答率が低かった。これは「最も多い申し立て」を「一番多い申し立て」という意味にとれるかどうかということだが、これを「一番良い申し立て」「全部多い申し立て」という意味にとった留学生が多かった。

問題8～問題10は、いわゆる読解問題であるが、問題10では(1)(2)とも西九州短大の正答率が低かった。特に(1)の正答率が低いのだが、この原因の一つとして考えられるのは、設問が「間違っているものはどれか」と尋ねているためであると思われる。選択式のほとんどの設問は「正しいものはどれか」と聞いている場合が多い上に、最後の方の問題なので終了時間が迫っていた焦りもあったかも知れない。

2回目と3回目の対策講座でプレースメントテストの解答解説を行ったが、この時は、教員側から正答を提示し、それについての解説を行うという形態をとった。しかし、西九州短大の学生から「学生側にどの選択肢を選んだか聞いて欲しい」との要望が出たため、4回目の対策講座からは学生たちに正答を考えさせる時間を与えて答えてもらうという形式にした。

3.3 テキストに沿った対策講座へ

4回目後半の対策講座から、テキストに沿った対策講座を開始した。スライドに問題文を映し、全員で声を出して読み上げてから解答に移った。その際、スライドの問題文の中で難しい語句や重要な語句にはハイライトを施しておき、学生たちに見やすいようにした。(図1)

そして、特に専門用語に関しては、留学生たちの母語と関連づけてその意味を正確に理解できるように心がけた。

表3 プレースメントテスト各設問の正答率

	問題1										平均		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
西九州短大 (%) N = 22	68.2	63.6	68.2	22.7	90.9	86.4	45.5	45.5	31.8	22.7	54.5		
長崎短大 (%) N = 5	66.7	83.3	66.7	33.3	50.0	50.0	66.7	0.0	16.7	33.3	46.7		
	問題3	問題4	問題5	問題6	問題7	問題8		問題9		問題10		全体平均	
						(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)		
西九州短大 (%) N = 22	90.9	68.2	63.6	72.7	100.0	881.8	90.9	63.6	77.3	27.3	36.4	70.2	62.8
長崎短大 (%) N = 5	83.3	66.7	50.0	66.7	100.0	66.7	66.7	66.7	66.7	50.0	66.7	68.2	57.9

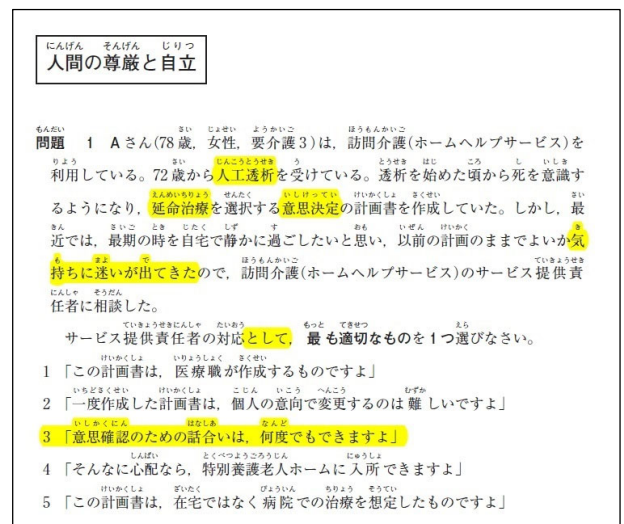


図1 ハイライトを施したスライド

出典：介護福祉士国家試験受験対策研究会：「介護福祉士国家試験過去問解説集 2021」中央法規（2020）

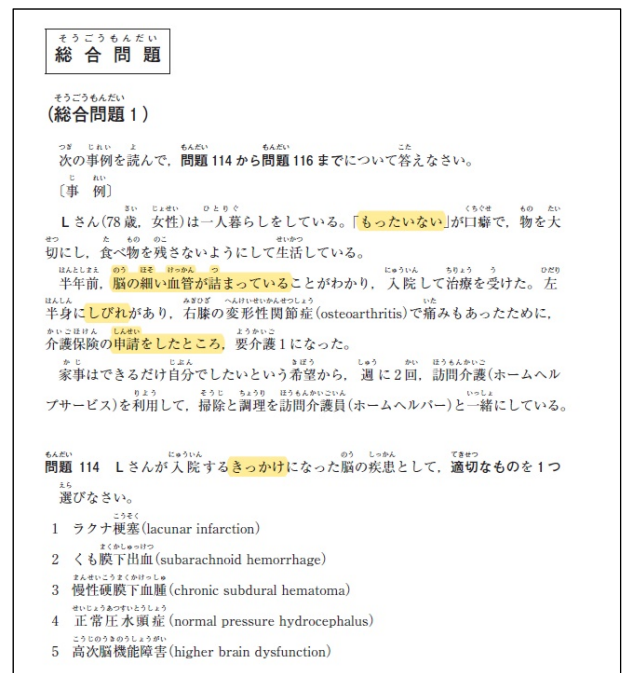


図2 総合問題のスライド

出典：介護福祉士国家試験受験対策研究会：「介護福祉士国家試験過去問解説集 2021」中央法規（2020）

4 回目の対策講座の終了後、両校の教員で中間検討会（第 1 回 国家試験日本語対策検討会）を行った。その中で、学生たちは総合問題の読解が苦手であるという話が出たため、次回からは総合問題を中心に対策講座を進めていくことが確認された。

総合問題も、スライドに問題文を映し、全員で声を出して読み上げてから解答解説に移った。そして、問題文の中で難しい語句や重要な語句にはハイライトを施しておき、詳しくその語句の解説を行った。（図 2）

4. アンケート結果

西九州短大の留学生 22 名に対策講座前後に Web でのアンケート調査を実施（資料 1.1・資料 1.2）。対策講座実施前のアンケートは、日本語レベルの現状把握や対策講座の内容を検討する目的で実施した。対策講座実施後のアンケートは、対策講座の効果や今後の対策講座の検討資料として実施した。対策講座実施前のアンケートの回収率は 32%、対策講座実施後のアンケート回収率

は 77%であった。

4.1 対策講座実施前アンケート結果

- ①対策講座実施前の国家試験に出てくる日本語について、100%の学生が難しいと感じていた。
- ②国家試験に出てくる日本語でどのような点が難しいと感じているかについては、「漢字」や「病気」「法律」などの専門用語に対し難しさを感じていた。
- ③国家試験に出てくる科目で、特にこの科目に出てくる日本語が難しいという科目については、「こころとからだのしくみ」や「医療的ケア」「社会の理解」など特に「病気の名前」や「法律用語」が出てくる科目の日本語に難しさを感じていた（図 3）。「病気の名前」や「法律用語」出てくる科目は、日本人も難しさを感じる科目であり、さらなる強化が必要である。
- ④国家試験に出てくる日本語の勉強方法については、国家試験の過去問と解説が記載している「クエスチョンバンク」の使用や「漢字の暗記」「ネットで検索」などの勉強方法を実施している学生がいた。

- ⑤国家試験の日本語について希望する勉強方法については、「従来の国家試験対策」を希望する学生や「個別勉強会」「専門用語」を中心とした勉強を望む学生がおり、個別の学生の希望に沿った学習形態の必要性も感じた。
- ⑥現在、国家試験に出てくる日本語の理解について、NRS（Numerical Rating Scale）注 1）を用いた調査した。結果、留学生の理解度の平均は 5 であった。

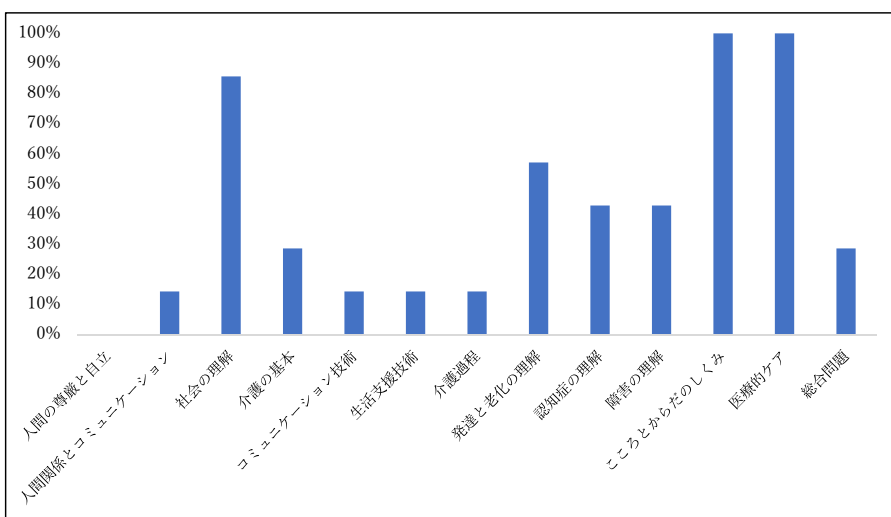


図 3 日本語が難しい科目（複数回答可）

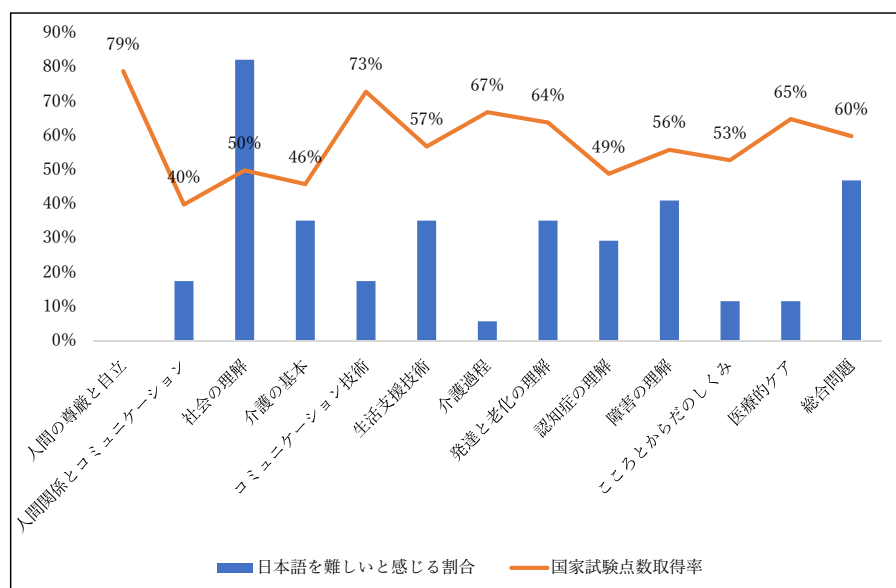


図 4 日本語が難しい科目と点数取得率（複数回答可）

4.2 対策講座実施後アンケート結果

- ①対策講座実施後の国家試験に出てくる日本語について、難しいと回答した学生は 59%、どちらでもないが 29%、その他が 12%であった。その他の理由としては、「日本語のレベルによって違う」という回答であった。対策講座実施前に比べ、難しいと感じた学生は減少したが、実施前後で回答した学生数も違う

ため、単純比較は出来ない。

- ②国家試験に出てきた科目でどの科目の日本語が難しかったかの質問では、「社会の理解」が82%の学生が特に難しいと感じており、次いで「総合問題」が47%、「障害の理解」が41%という結果となった。「社会の理解」や「障害の理解」は、「病気の名前」や「法律用語」が多く出てくる科目であり、その点で困難さを感じている学生が多いと考える。「総合問題」に関しては、幅広い知識が必要とされる点、事例問題や長文での問題であり、問題の意味理解に困難さを感じているのではないかと推測する。また、実際国家試験の点数取得率との比較では、難しいと感じていた「社会の理解」の点数取得率は低い傾向にあったが、あまり難しいと感じていなかった「人間関係とコミュニケーション」や「介護の基本」等の点数取得率も低く、難しいと感じている科目と実際の点数取得率での差がみられた(図4)。
- ③国家試験に出てきた日本語で、難しいと感じた日本語について、「漢字」や「病気の名前」「法律」など対策講座実施前と同様の回答がみられた。また、一部ではあるが「最も適切な問題を選びなさい」などの設問の読み解きに対して難しさを感じている学生も見られた。
- ④国家試験の日本語についてどのような勉強をしたか、また今後どのような勉強をした方がいいかの質問では、「クエスチョンバンク」に実施や「漢字の暗記」「ネットで検索」と対策講座実施前と同様の結果となった。また、今後の勉強としては、「クエスチョンバンクに加え他の過去問やさまざまな本で勉強する」「知識のインプットを母国語で理解し、アウトプットは日本語で行う」「グループ学習を行う」「専門用語の詳しい解説」「もっと早い時期から勉強する」などの意見がみられた。
- ⑤対策講座実施後の国家試験に出てくる日本語の理解

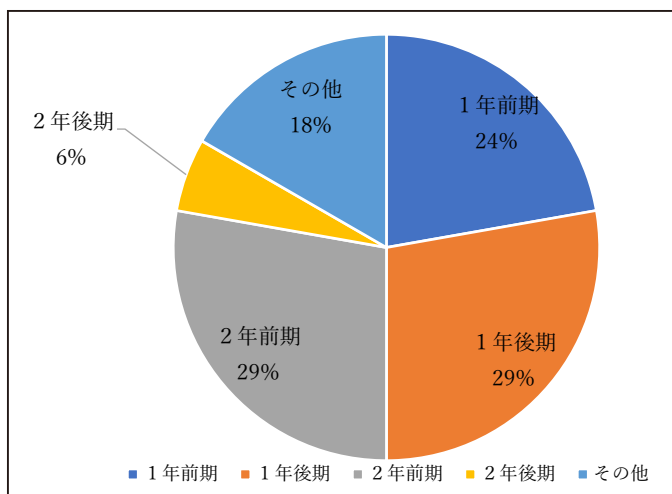


図5. 対策講座を行う時期について

について、NRS (Numerical Rating Scale) を用いた調査では、平均6であった。

- ⑥対策講座は、どのくらい役に立ったかについて、NRS (Numerical Rating Scale) を用いた調査では、平均6であった。
- ⑦今後、今回のような対策講座を行う場合、参加したいと思うの質問では、「参加したい」が47%、「参加したくない」が41%、その他が12%であった。
- ⑧今後、対策講座を行う場合、いつの時期が良いかの質問では、「1年後期」「2年前期」の意見が多く(図5)、実際に対策講座を実施した2年後期の時期よりも早い時期での実施を望む意見が多かった。

5. 対策講座の振り返り

5.1 反省点や気づきなど(文責 小嶋)

担当教員が日本語教育専門の教員であったため、日本語能力(文法や語彙等)向上の指導だけに特化してしまったため、西九州短大の学生にとっては物足りないものとなったと思われる。

長崎短大の学生の中でも日本語能力の高い学生(中国人)は初回だけの出席であった。

今後、このような対策講座を行う場合は、学生の日本語レベルに合わせて1年生対象あるいは日本語初級レベルの学生とした方がよいかも知れない。また、開講時期に関しても、年度の前期前半の方がより効果があったと思われるが、本事業の開始時期を考えると無理であった。

また、「国家試験対策」として開講したため、当初、教員側(小嶋)は合格することを第一に考えてしまい、設問選択肢(特に総合問題)の正解を学生に考えさせることなく提示し、その解説だけに終始してしまった。すなわち「数をこなして」国家試験に慣れていくという方法をとったのである。

しかし、その後、西九州短大の学生より「自分たちで解答を考えたいので、それを考える時間を作って欲しい」という要望があった。その方法に切り替えたことにより、それまで講義を聴くだけだった学生たちの間に積極的に対策講座に参加しようという姿勢が見られるようになった。

教員側は、「数をこなして多くの問題を解くか、少ない問題でもじっくりと考えるか」、最初に学生の要望を吸い上げる姿勢が必要だったと深く反省している。また、それに応じて対策講座内容の変更や進め方も柔軟に変更できる準備を整えておくことが必要であろう。

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン形式での対策講座で始めたにもかかわらず、長崎短大側で2回、西九州短大側で2回、学生の登校禁止の影響でそれぞれの学校側の個別対応となってしまった。

学生への周知の方法も含めて、このような不測の事態に備えたさらに柔軟な対策講座の対応準備が必要である

と痛感させられた。長崎短大は、受講学生数が少なかったため、登校が許可された後、対面での対策講座でオプションの補講を行うことができたが、西九州短大のように学生数が多い場合の補講実施は非常に困難であったと思われる。

その他、開講時間が5限という遅い時間であったため、アルバイトも含めて学生には精神的な負担がかかってしまった。しかし、他の時間での開講は、実習などの制約の大きい介護福祉分野の学生にはさらに無理だったかも知れないとも考えられ、連携講座実施の難しさを感じた。

最後の対策講座数回が両校別々になってしまったため、プレースメントテストを2回実施することができなかった。そのため、学生の日本語能力の伸びあるいは停滞を測定することができず、本講座の実際の効果をみることができなかった。

また、介護福祉士国家試験は年度末に行われるため受験後の学生の声を聞くことは難しいが、メールやSNS等を用いた何らかの形で声を拾うことも大切である。

本講座のような形態が本当に効果があるのかないのか、次年度以降の課題である。

5.2 反省点や気づきなど（文責 鶴）

今回の対策講座では、長崎短大の日本語教育専門の教員による日本語対策講座を実施した。西九州短大の教員は、対策講座の調整、遠隔機材の調整、西九州短大の留学生学習支援、学生からの意見聴取等を主に担当した。

対策講座実施前に、対策講座実施に向けた包括的連携協議会を開催し、対策講座の方針等を話し合ったが、明確な実施内容の検討が不十分で、対策講座の実施状況の確認、学生からの意見聴取を行いながら、その都度内容の検討を行った。対策講座後アンケートの②国家試験に出てきた科目でどの科目の日本語が難しかったかの質問では、留学生が自覚する科目以外にも点数が取れていない科目もあり、日本語が対策講座実施前の留学生への意見聴取のみではなく、実際の国家試験問題を用いたテストでの詳細な分析の必要性を感じた。

また、⑦今後、今回のような対策講座を行う場合、参加したいと思うの質問では、「参加したい」と回答した学生は半数程度にとどまっていた。その理由としては、実施時期が影響していると考えられる。留学生の半数以上が、今回の実施時期（2年後期）より早い時期での実施を希望していた。国家試験は1月末であり、2年後期の時期は、問題をどんどん解いて覚えたいと考える学生も多く、現在より早い時期での実施の検討の必要性を感じた。本講座では、国家試験に出てくる日本語の意味理解が中心であったため、2年前期または1年後期での実施がより効果的ではないかと考える。

対策講座の実施形態については、長崎短大の留学生は

対面、西九州短大の留学生は、長崎短大とZOOMで接続し遠隔での対策講座を実施した。遠隔ではあったが、長崎短大と同じ内容の講座で問題を解き合うことは学生のモチベーションの維持・向上につながったと考える。

また、対策講座では両校の教員も参加したため、講座終了後に即時、講座の振り返りや改善策を話し合えたことは大きな収穫であったと考える。

対策講座後半では、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、在宅学習へと切り替わった。学校では、通信環境が整っているが、在宅では通信環境が整っていない学生も多く、対策講座が実施できない状況となった。そのため、対策講座実施後のプレースメントテストでの効果判定もできなかった。今後は、通信環境の整備・調整も含めた対応の必要性を感じた。

V. まとめ

本講座では、両校を遠隔でつないでの初めての取り組みとなり、そのなかで感じた利点や改善点も多く見られた。両校の学生たちにとっては、出席の多い少ないに関わらず「他校の留学生たちもがんばっている」と知ることができたことが一番の収穫だったのではないだろうか。

毎回の対策講座終了後10分間程度の教員同士の反省・情報交換・交流および中間報告会を行った。教員側にとっては、このことが教員の自己研鑽（他校での留学生対応のあり方の実際を知ることができた）と、対策講座後の充実感を得ることができ、次の対策講座もがんばろうという意欲にもつながり大きな収穫であった。

また、遠隔授業ツール（今回はZOOMを使用）を用いれば、他校同士の連携講座や学生間の交流も可能であり、今後のさらなる連携の可能性を見いだせた。その反面、不測の事態（新型コロナウイルス感染症）で学生が登校できない場合、在宅での通信環境調整に困難さを感じた。

対策講座の内容や実施時期の検討、通信環境の整備・調整は、今後の検討事項となった。

本稿では「成果を記述する」ということよりも、両校の教員の協力の下、試行錯誤のうちに歩み続けた経過を書きとどめておくことに重点を置いた。そのことよって、今後の両校の連携講座がさらに飛躍していくと期待する。

注1：NRSは、全然理解していない場合は1、とても理解している場合は10とし1～10の間で理解度を評価する。

参考・引用文献

- 1) 厚生労働省：第7期介護保険事業計画介護人材の必要性について（オンライン）入手先< <https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12004000-Shakaiengokyoku-Shakai-Fukushikibanka/0000207318.pdf> >, (参照 2021.10.5)
- 2) 日本介護福祉士養成施設協会：介護福祉士養成施設への入学者数と外国人留学生（平成28年度から令和2年度）（オンライン）入手先< http://kaiyokyo.net/news/h28-r2_nyuugakusha_ryuugakusei.pdf >, (参照日 2021.10.5)
- 3) 厚生労働省：介護福祉士養成施設卒業生に対する国家試験義務付けについて（オンライン）入手先< http://kaiyokyo.net/member/03_kr_fu_ko_gi.pdf >, (参照日 2021.10.5)
- 4) 介護福祉士国家試験受験対策研究会：「介護福祉士国家試験過去問解説集 2021」中央法規（2020）

介護福祉士国家試験対策講座アンケート（実施前）

1. アンケート結果を研究に使用することに同意いただけますか？
はい ・ いいえ
2. 国家試験に出てくる日本語は難しいと感じますか？
難しい・簡単・どちらでもない・その他（ ）
3. 国家試験に出てくる日本語で、どのようなところが難しいと感じますか？
4. 国家試験に出てくる日本語で、難しい文章や単語があったら記入してください。
5. 国家試験に出てくる科目で、特にこの科目の問題に出てくる日本語が難しいという科目があれば、記入して下さい。
6. 国家試験に出てくる日本語についてどのような勉強をしていますか？
7. 国家試験の日本語対策について、こういう勉強をしてほしいという希望があったら記入して下さい。
8. 現在、国家試験の日本語について自分が、どのくらい理解していると思いますか？1が、全然理解できていない、10がとても理解できているとしたら、自分は、1～10のどこに当てはまると思いますか？
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

介護福祉士国家試験対策講座アンケート（実施後）

1. アンケート結果を研究に使用することに同意いただけますか？
はい ・ いいえ
2. 国家試験に出てくる日本語は難しいと感じましたか？
難しい・簡単・どちらでもない・その他（ ）
3. 国家試験に出てきた科目で、特にどの科目が難しかったですか？
4. 3の科目を選んだ理由を教えてください。
5. 国家試験に出てきた日本語で、難しい文章や単語があったら記入して下さい。
6. 国家試験に出てくる日本語で、どのようなところが難しかったですか？
7. 国家試験に出てくる日本語について、どのような勉強をしましたか？
8. 国家試験合格のため、どのような日本語の勉強をした方がいいと思いますか？
9. 国家試験の日本語対策について、こういう勉強会をしてほしいという希望がありましたら、記入して下さい。
10. 現在、国家試験の日本語について自分が、どのくらい理解していると思いますか？1が、全然理解できていない、10がとても理解できているとしたら、自分は、1～10のどこに当てはまると思いますか？
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
11. 国家試験の日本語対策講座は、どのくらい役に立ちましたか？1が全く役に立たなかった、10がとても役に立ったとした場合、1～10のどれにあてはまりますか？
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
12. 今後、今回のような日本語勉強会があれば参加したいか？
はい・いいえ
13. 今後、今回のような日本語勉強会を行う場合、時期はいつ頃がいいと思うか？
1年前期・1年後期・2年前期・2年後期・国家試験直前・その他（ ）

資料1-1 対策講座についてのアンケート（実施前）

資料1-2 対策講座についてのアンケート（実施後）